

令和3年度モニタリングシート

【施設名等】

施設名	大洲家族旅行村 オートキャンプ場	位置	大洲市菅田町大竹乙 938-1
指定管理者名	株式会社おおず家族村	所管課	観光まちづくり課

【施設の概要】

設置年月日	平成2年4月1日	構造	木造平屋建ほか公園施設
設置目的	恵まれた自然環境の中で、家族や小グループが楽しめる観光レクリエーションの場を確保し、もって健康及び福祉の増進と地域振興に資する。		
施設機能	オートキャンプ場 ・キャンプサイト 16サイト（うち電源付き2サイト） ・コテージ 2棟（6人用）、2棟（8人用） ・管理舎 ・炊事棟 ・便所 ・帯施設 車路、バーベキュー施設、倉庫等 ピクニック緑地 ・スロープガーデン ・じゃぶじゃぶ池 ・ファミリー園地 ・ファミリーガーデン（果樹園、園路、東屋2基） ・見晴らし広場 ・ちびっ子広場 ・管理棟（事務所、便所、休憩室、機械室）		
利用料金等	テントサイト1サイト2,200円 コテージ6人用11,000円～ コテージ8人用13,200円～ その他レンタル用品、販売品など		
開館・閉館	営業時間8:30～17:00 ただし利用者のいる場合は24時間常駐		
指定管理業務内容	(1) 施設の管理運営に関すること (2) 施設及び設備並びに備品の維持管理に関すること (3) 誘致及び施設の利用促進に関すること (4) 施設の利用許可に関すること (5) 利用料等の収受に関すること (6) 情報発信事業に関すること (7) 施設賠償責任保険に加入すること (8) 利用者の安全の確保に関すること (9) 個人情報保護に関すること (10) 業務報告に関すること (11) その他管理運営に関し必要な業務		
施設管理体制	常勤2名 パート1名		

【施設利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R2年度	159人	0人	144人	259人	616人	281人
R3年度	449人	240人	285人	348人	527人	296人
比較	290人	240人	141人	89人	▲89人	15人
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
306人	357人	209人	151人	179人	371人	3,032人
256人	511人	263人	158人	166人	428人	3,927人
▲50人	154人	54人	7人	▲13人	57人	895人

【指定管理者としての収入・支出（決算）】

単位:円（税込）

収入内訳	収入金額	支出内訳	支出金額
指定管理料	8,867,000	仕入高	539,283
利用料金	7,060,000	人件費	8,213,978
自販機売上	204,000	水光熱費	2,026,959
利息	25	修繕費	581,933
		減価償却費	29,545
		その他経費	4,865,416
		法人税	309,000
合計	16,131,025	合計	16,566,114

【サービス向上に向けた取り組み】

H22年度～ H30年度	指定管理者になってからの新規サービス（毎年継続実施） 春、秋の無料開放イベントの開催/「手ぶらで～プラン」各種の実施/バーベキュー食材、いもたきセットなどの各種食材の販売/地元住民向けの施設貸切利用特別料金/ブルーベリーの植え付け他定期的に苗木の植樹/冬場コテージにファンヒーター、土鍋などを設置/ホームページ、Facebookの開設
R2年度	コロナ感染対策（消毒液配置、使い捨てスリッパ設置、除菌清掃など） キャンパー向けサービスとして、キャンプステッカーボード設置、肱川トーチ販売、焚き火台、竹灯籠用キャンドル購入など 焙煎珈琲の販売、電子レンジとケトル設置
R3年度	無料開放イベント年3回開催、四国アウトドアスタンプラリー参加 キャンプ場文庫開設（無料貸出しなど）、コテージテラスに防火シート設置 えひめ南予きずな博カード特典参加（コロナにより次年度4月に延期） 家族でDIY木工キット販売準備（次年度5月開始予定）

【利用者から要望と対応状況】

利用者からの苦情・要望への対応
<p>コロナ感染予防のため、施設内各所のかまめな除菌をこころがけた。また年間通して受け入れ数を限定したため、きめ細かな対応もでき利用者にはおおむね好評だった。また消毒やマスクの着用など感染防止にもご協力をいただいた。</p> <p>春、秋にはカメムシが異常発生し多少の苦情もあったが、こまめな駆除や早めに防虫剤を散布するなどして被害を少なくするよう努めた。</p>

### 【指定管理者の自己検証】

コロナウィルスの影響が出始めて3年目を迎えたが、前年度と比較すると少しずつではあるが、人の動きが回復してきているように感じる。またこれまでは県内の利用者がほとんどであったが、年明けごろから県外からの利用者も増え始めており、予約や問合せなども回復傾向にある。ただ現在も感染防止のため、これまでと同様にテントサイトは1日6~7組を上限に、コテージは定期的に空室日を設けるなどし、受け入れ制限を継続中である。キャンプの予約や問合せは、以前と比較してもかなり増えており、週末はお断りすることも多く、受け入れ態勢が整えばかなりの利用者増につながると実感している。

今年度の利用者の特徴としては、キャンプブームの影響で、これまでは少なかったオフシーズンや平日にも多くの方々にご来場いただいた。コロナの影響でほとんどが県内の利用者だったが、週末は家族連れ、平日にはソロキャンパーや少人数での利用が多かった。ただ平日を含め常に利用者がある状況が続くため、キャンプ場内の草刈業務などに支障をきたしており、今後対策を考えたい。

新たな物品販売として、次年度から手づくりのウッドキャンドルや子供向けの手作り木工キットの販売を予定している。さらに引き続き増加傾向にあるキャンパー向けの新たなサービスも考えていきたい。

今年度から年2回だったイベント（キャンプ場無料開放デー）を3回とし、コロナ対策をとりながら開催した。イベントを通じて地元の方々を含め、新たな利用者も増えてきておりこれからも継続していきたい。

3月にバーベキューの炭がこぼれ、コテージテラスの床の一部を焦がす事故が発生した。テラスはウッドデッキで、バーベキューをされる利用者も多いことから常々警戒はしていたが、今後は防火シートの設置、見回りの強化、非常時対応の再確認など、事故防止のため今一度対策を徹底したい。

### 【施設所管課の検証・評価】

法定点検や報告をはじめとした施設管理については概ね良好で、各種マニュアルも充実しており、清掃、修繕等が写真付きで整理されている。

イベントを開催することで、地元企業との連携に積極的に取り組んでおり、キャンパーに喜んでいただく新たなサービスを検討するなど、サービス向上に向けた取り組みを行っている。

コロナ禍により厳しい運営が続いている一方で、問い合わせや利用が少なかったオフシーズンや平日の利用も増え、週末は家族連れ、平日にはソロキャンパーや少人数の利用も増えるなど、依然としてキャンプブームが続いている。利用料金の変更などについても視野に入れながら、引き続き施設管理運営に尽力いただきたい。